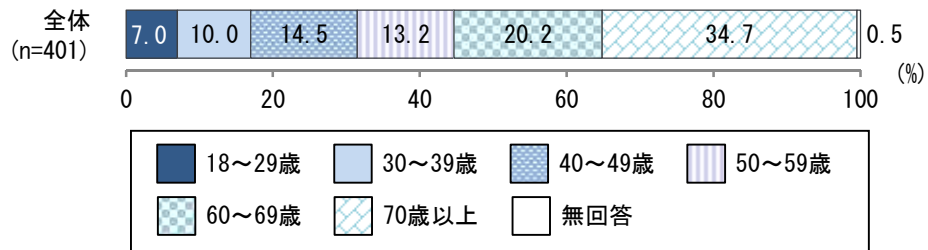


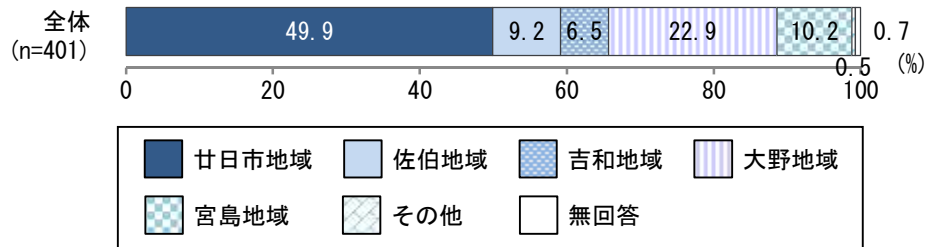
V 調査結果（日本人住民）

1 回答者属性について

問1 年齢を教えてください。（○は1つ）

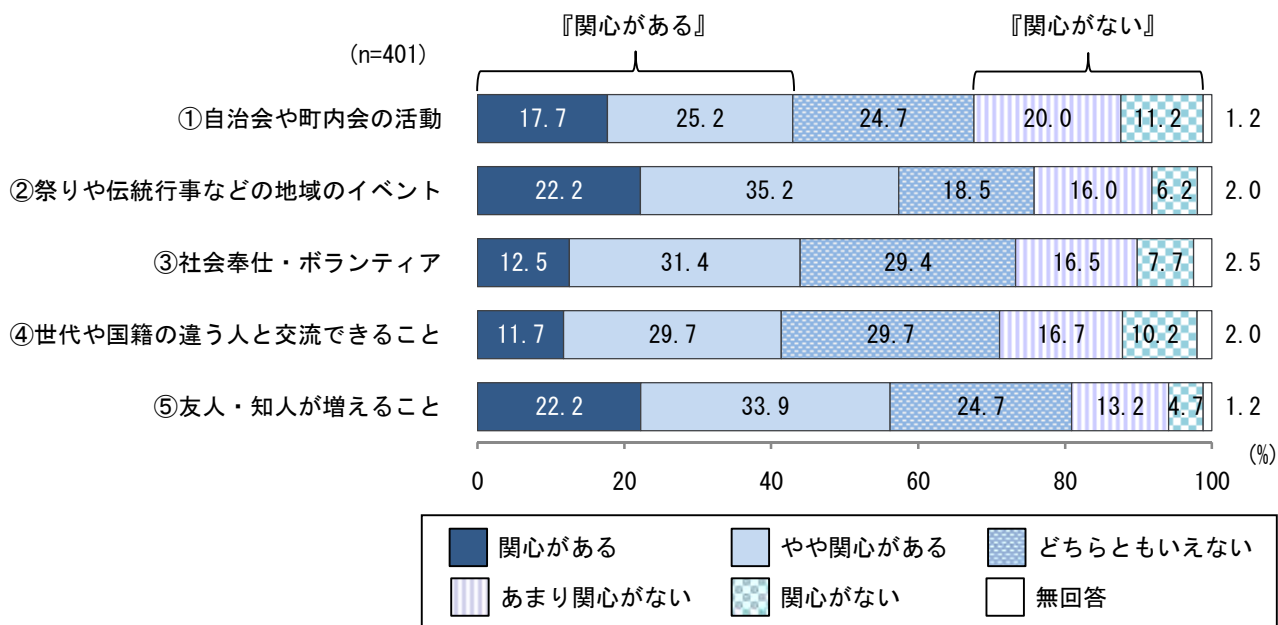


問2 住んでいる地域を教えてください。（○は1つ）



問3 あなたは、次のようなことに関心がありますか。(それぞれ1つに○)

【全体】

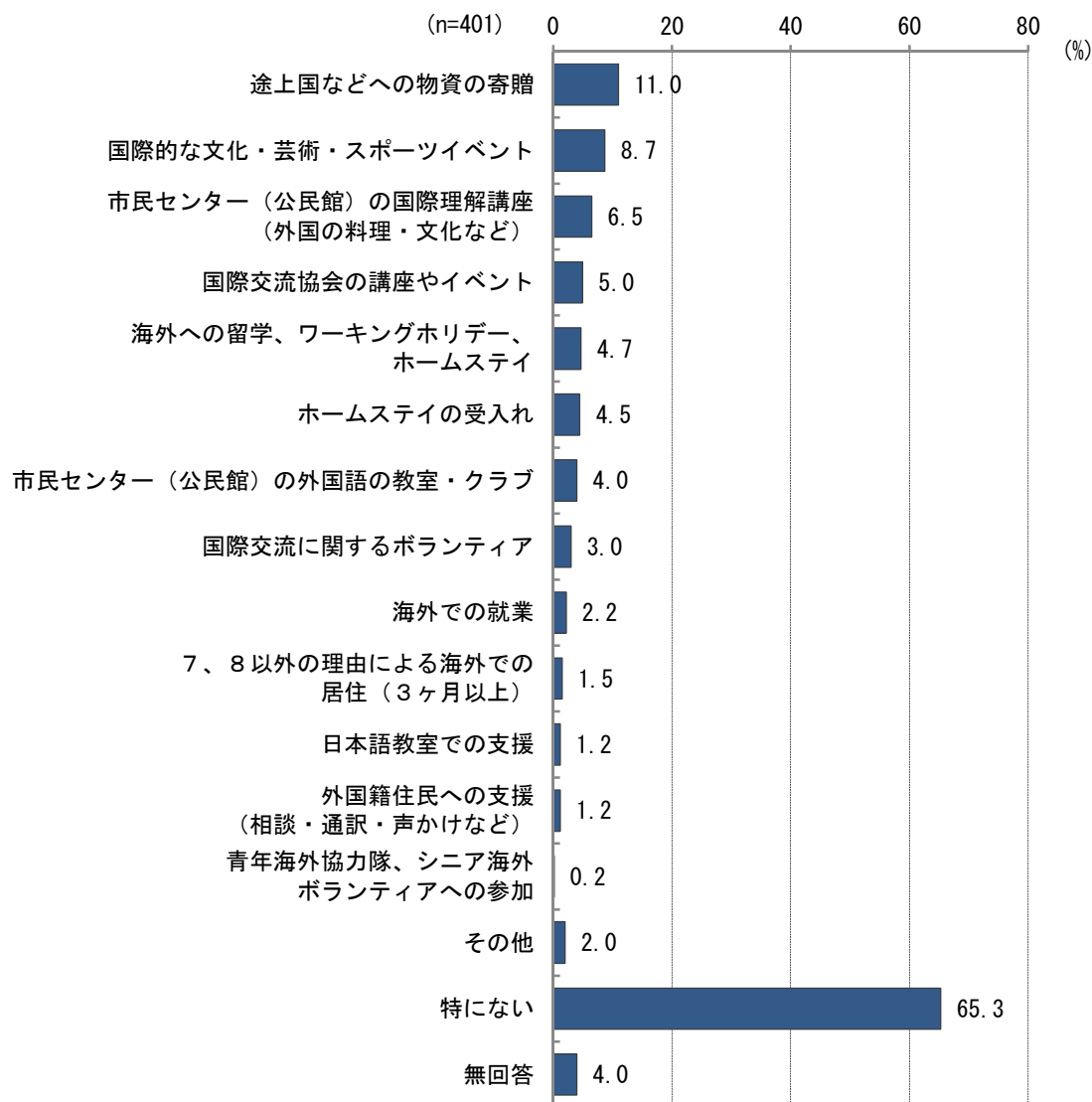


関心があることについて、『関心がある』（「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた割合）との回答は「祭りや伝統行事などの地域のイベント」（57.4%）、「友人・知人が増えること」（56.1%）、「社会奉仕・ボランティア」（43.9%）などの順となっている。一方、『関心がない』（「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた割合）との回答は「自治会や町内会の活動」（31.2%）となっている。

2 国際化・多文化共生について

問4 次のうち、今までにあなたが参加した活動や経験したことはありますか。(〇はいくつでも)

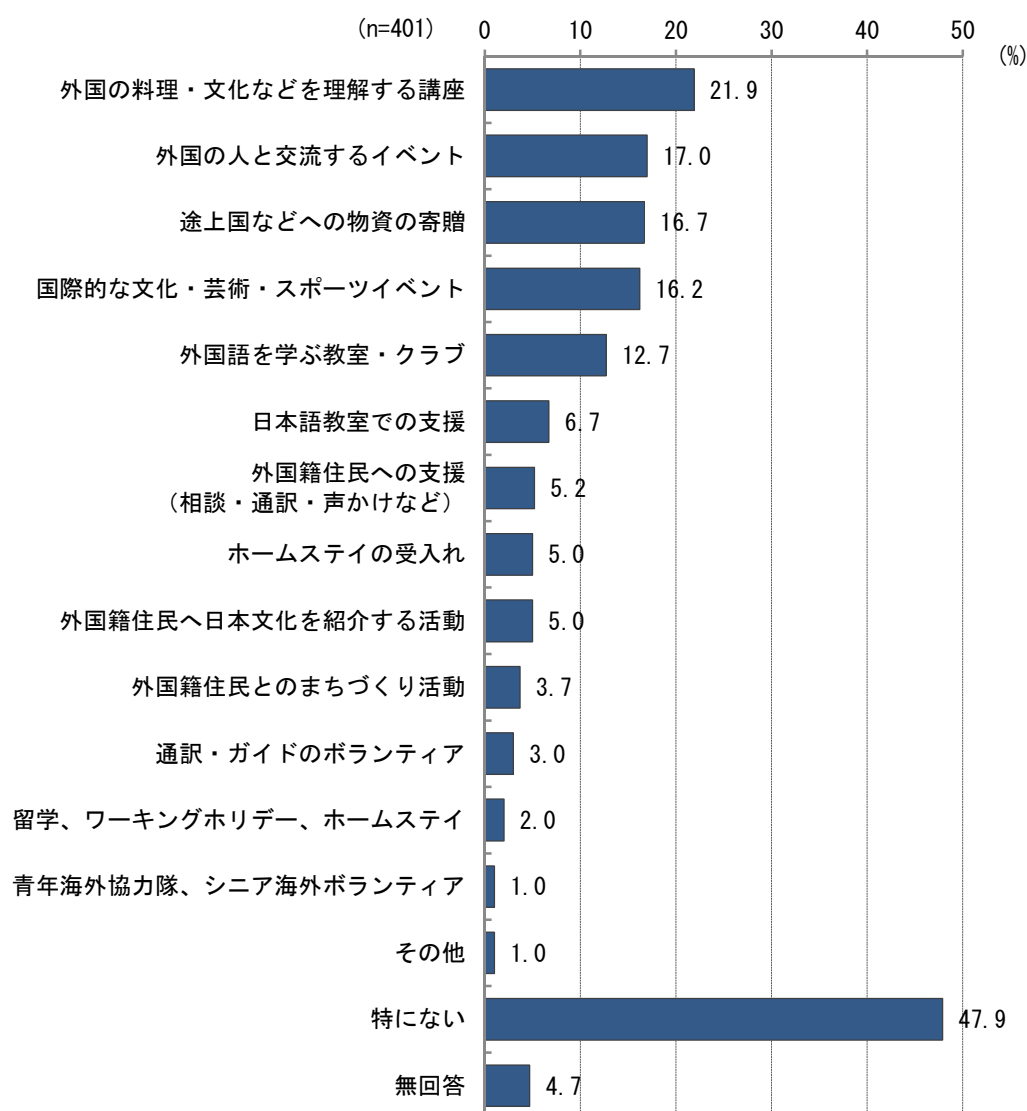
【全体】



参加したことがある活動や経験について、「途上国などへの物資の寄贈」との回答が11.0%と高く、次いで、「国際的な文化・芸術・スポーツイベント」(8.7%)、「市民センター（公民館）の国際理解講座（外国の料理・文化など）」(6.5%)などの順となっている。また、「特にない」との回答も65.3%と高くなっている。

問5 次のうち、これからあなたが参加したい活動はありますか。(〇はいくつでも)

【全体】



これから参加したい活動について、「外国の料理・文化などを理解する講座」との回答が 21.9%と高く、次いで、「外国の人と交流するイベント」(17.0%)、「途上国などへの物資の寄贈」(16.7%)などの順となっている。また、「特にない」との回答も 47.9%と高くなっている。

【年齢別】

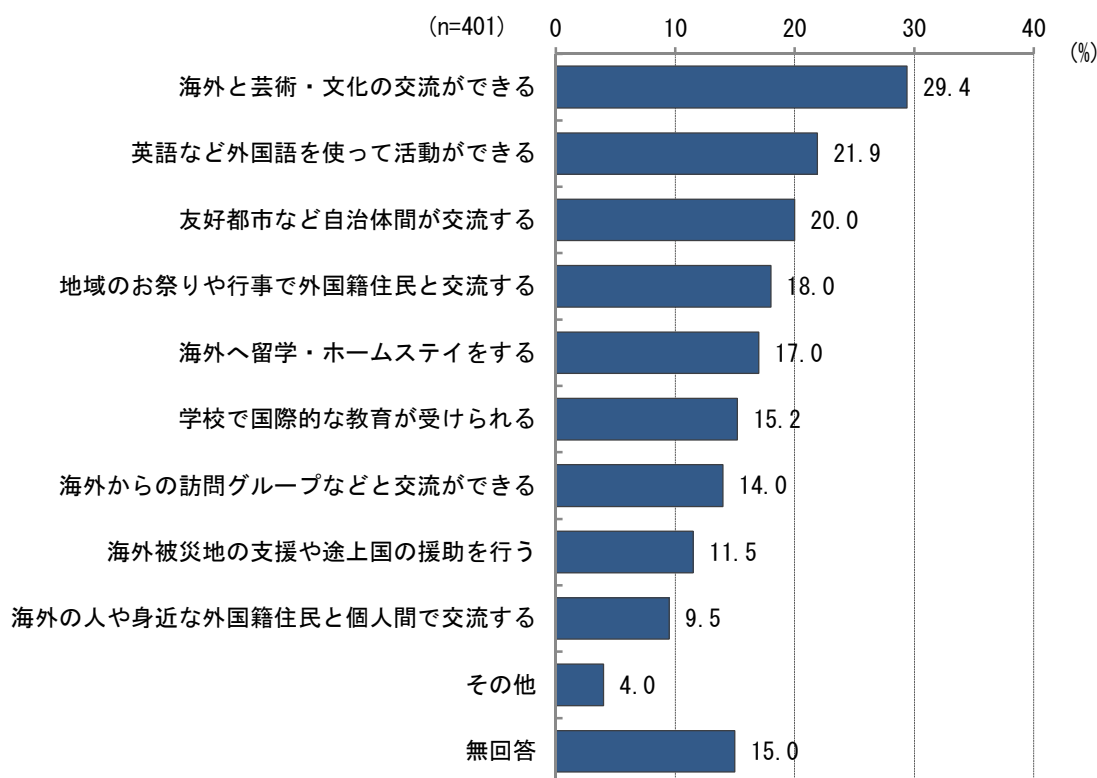
年齢別にみると、50～59 歳を除くすべての年齢で「特にない」との回答が高くなっている。一方で、「外国の料理・文化などを理解する講座」との回答は 50～59 歳で 4 割超と高くなっている。

	外国の料理・文化などを理解する講座	外国語を学ぶ教室・クラブ	外国の人と交流するイベント	国際的な文化・芸術・スポーツイベント	途上国などへの物資の寄贈	青年海外協力隊、ボランティア	留学、ワーキングホリデー、ホームステイ	ホームステイの受入れ	通訳・ガイドのボランティア	日本語教室での支援	外国籍住民へ日本文化を紹介する活動	外国籍住民への支援（相談・通訳・声かけなど）	外国籍住民とのまちづくり活動	その他	特にない	無回答
全体 (n=401)	21.9	12.7	17.0	16.2	16.7	1.0	2.0	5.0	3.0	6.7	5.0	5.2	3.7	1.0	47.9	4.7
18～29歳 (n=28)	14.3	14.3	17.9	25.0	17.9	7.1	10.7	17.9	7.1	3.6	3.6	7.1	-	-	42.9	-
30～39歳 (n=40)	15.0	12.5	12.5	17.5	15.0	-	7.5	5.0	-	2.5	5.0	2.5	2.5	-	45.0	5.0
40～49歳 (n=58)	24.1	19.0	29.3	15.5	19.0	3.4	1.7	8.6	3.4	10.3	6.9	6.9	3.4	1.7	43.1	1.7
50～59歳 (n=53)	41.5	26.4	18.9	28.3	22.6	-	-	1.9	5.7	13.2	7.5	7.5	5.7	-	39.6	-
60～69歳 (n=81)	29.6	13.6	18.5	17.3	9.9	-	1.2	3.7	3.7	9.9	3.7	6.2	7.4	1.2	44.4	3.7
70歳以上 (n=139)	12.9	4.3	11.5	9.4	18.0	-	-	2.9	1.4	2.9	4.3	3.6	2.2	1.4	57.6	7.9

1 位 2 位 3 位

問6 「国際交流」に対してどのようなイメージをお持ちですか。（○は2つまで）

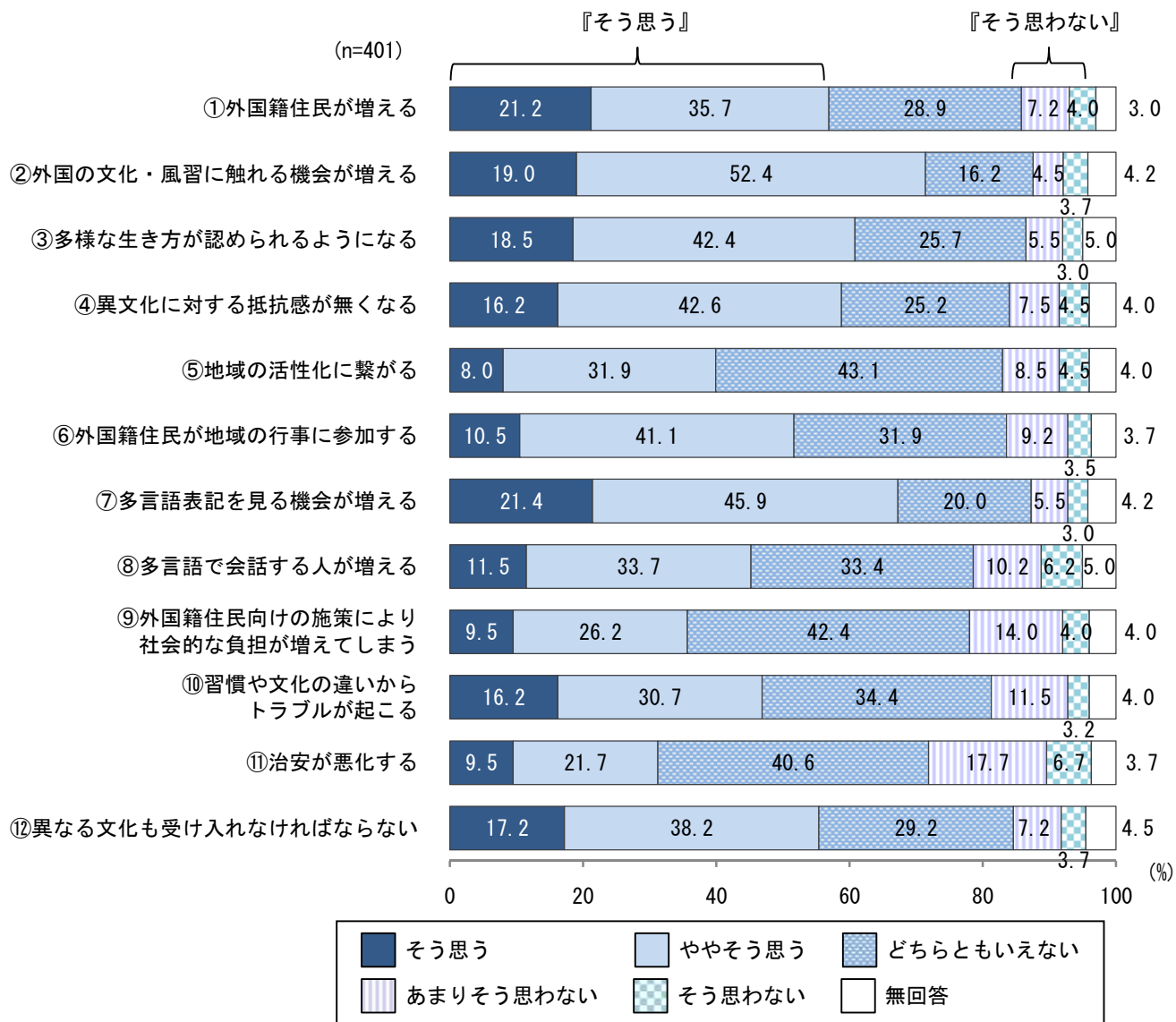
【全体】



「国際交流」に対してのイメージについて、「海外と芸術・文化の交流ができる」との回答が 29.4% と最も高く、次いで、「英語など外国語を使って活動ができる」(21.9%)、「友好都市など自治体間が交流する」(20.0%) などの順となっている。

問7 「多文化共生」に対してどのようなイメージをお持ちですか。(それぞれ1つに○)

【全体】

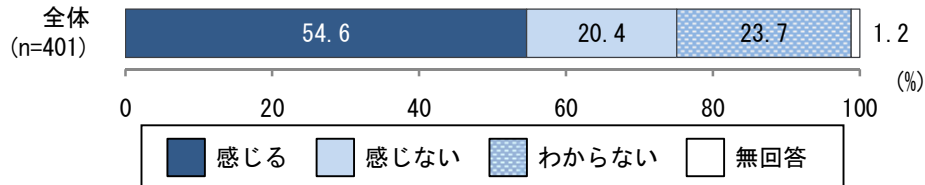


「多文化共生」に対してのイメージについて、『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合）との回答は「外国の文化・風習に触れる機会が増える」（71.3%）、「多言語表記を見る機会が増える」（67.3%）、「多様な生き方が認められるようになる」（60.8%）などの順となっている。一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合）との回答は「治安が悪化する」（24.4%）となっている。

3 外国籍住民とのかかわりについて

問8 10年前（平成23（2011）年）に比べて、外国籍住民が多くなったと感じますか。（○は1つ）

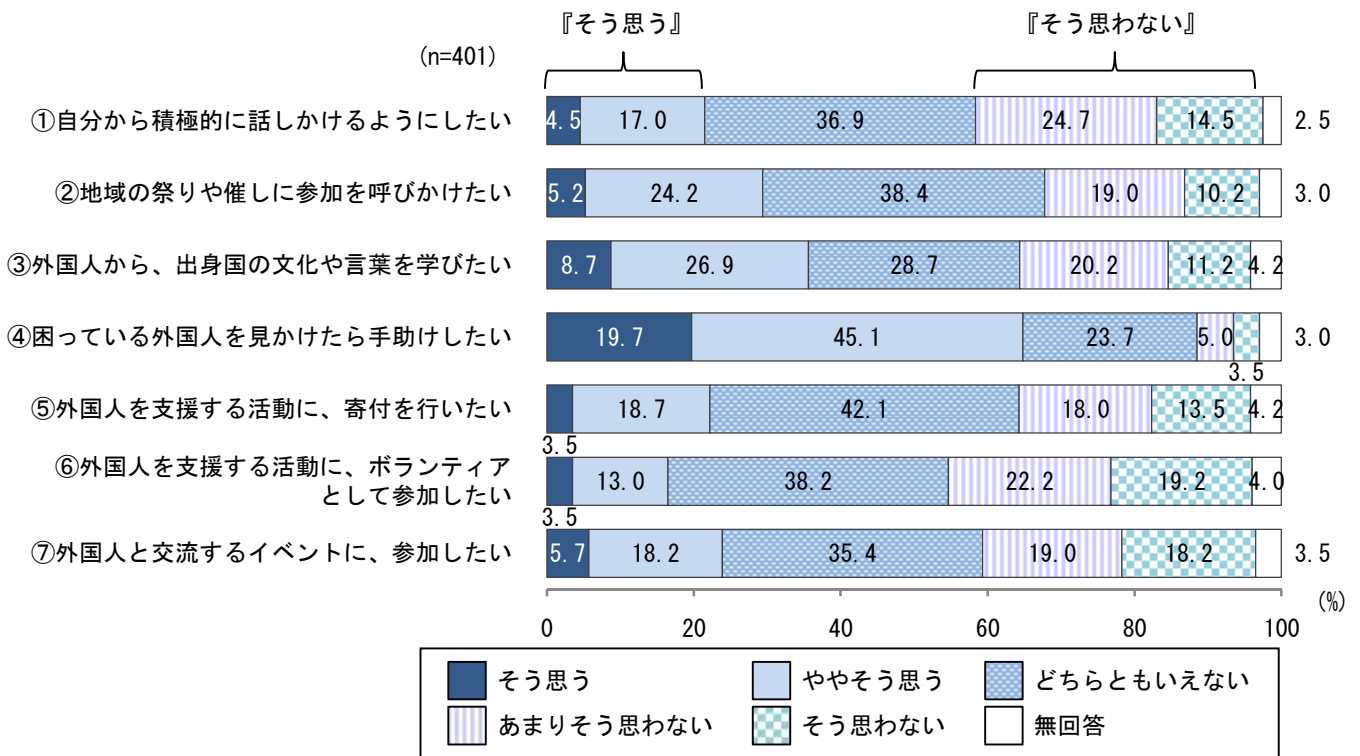
【全体】



10年前と比較して外国籍住民の増加の有無について、「感じる」との回答が54.6%と最も高く、次いで、「わからない」（23.7%）、「感じない」（20.4%）などの順となっている。

問9 あなたは、外国籍住民に対して、次のようにかかわりたいと思いますか。（それぞれ1つに○）

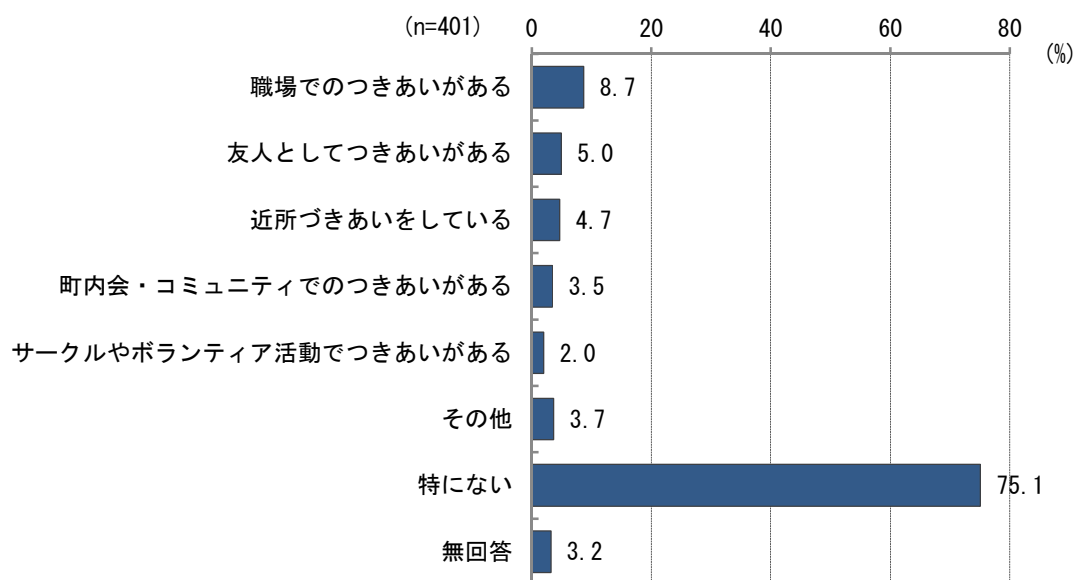
【全体】



外国籍住民に対しての関わり方について、『『そう思う』』（「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合）との回答は「困っている外国人を見かけたら手助けしたい」（64.8%）、「外国人から、出身国の文化や言葉を学びたい」（35.7%）、「地域の祭りや催しに参加を呼びかけたい」（29.4%）などの順となっている。一方、『『そう思わない』』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合）との回答は「外国人を支援する活動に、ボランティアとして参加したい」（41.4%）となっている。

問 10 外国籍住民とのつきあいがありますか。(○はいくつでも)

【全体】

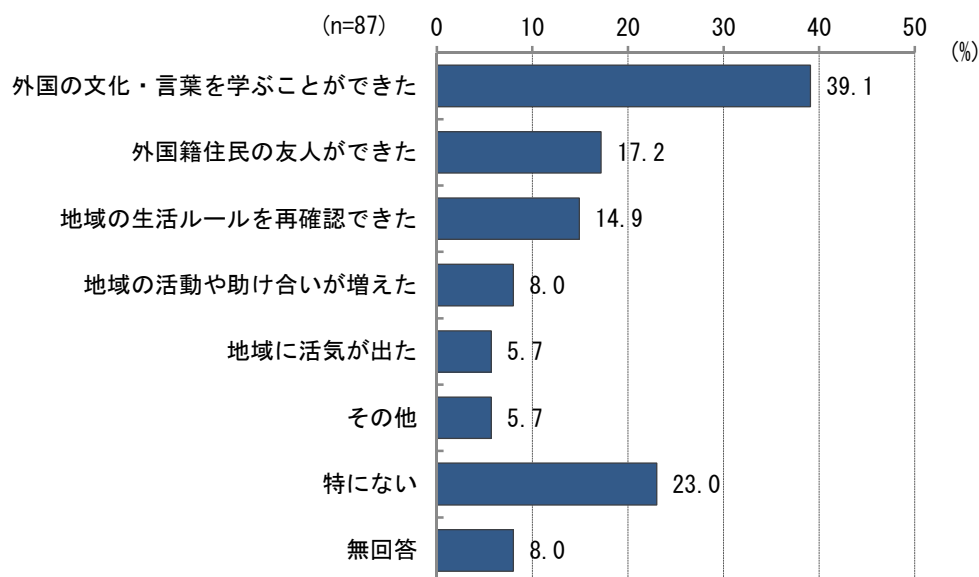


外国籍住民とのつきあいの有無について、「職場でのつきあいがある」との回答が 8.7%と高く、次いで、「友人としてつきあいがある」(5.0%)、「近所づきあいをしている」(4.7%)などの順となっている。また、「特にない」との回答も 75.1%と高くなっている。

問 10 で「1」～「6」と答えた方に聞きます。

問 11 外国籍住民とつきあう中で、良かったと思うことはありますか。(○はいくつでも)

【全体】

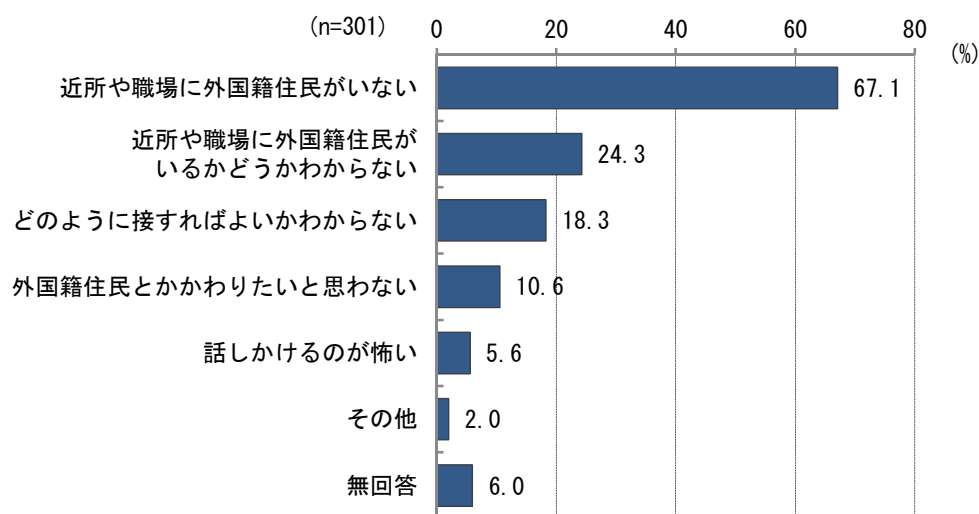


外国籍住民とつきあう中で良かったことについて、「外国の文化・言葉を学ぶことができた」との回答が 39.1%と最も高く、次いで、「外国籍住民の友人ができた」(17.2%)、「地域の生活ルールを再確認できた」(14.9%)などの順となっている。

問 10 で「7 特にない」と答えた方に聞きます。

問 12 外国籍住民とのつきあいがいい理由は何ですか。(○はいくつでも)

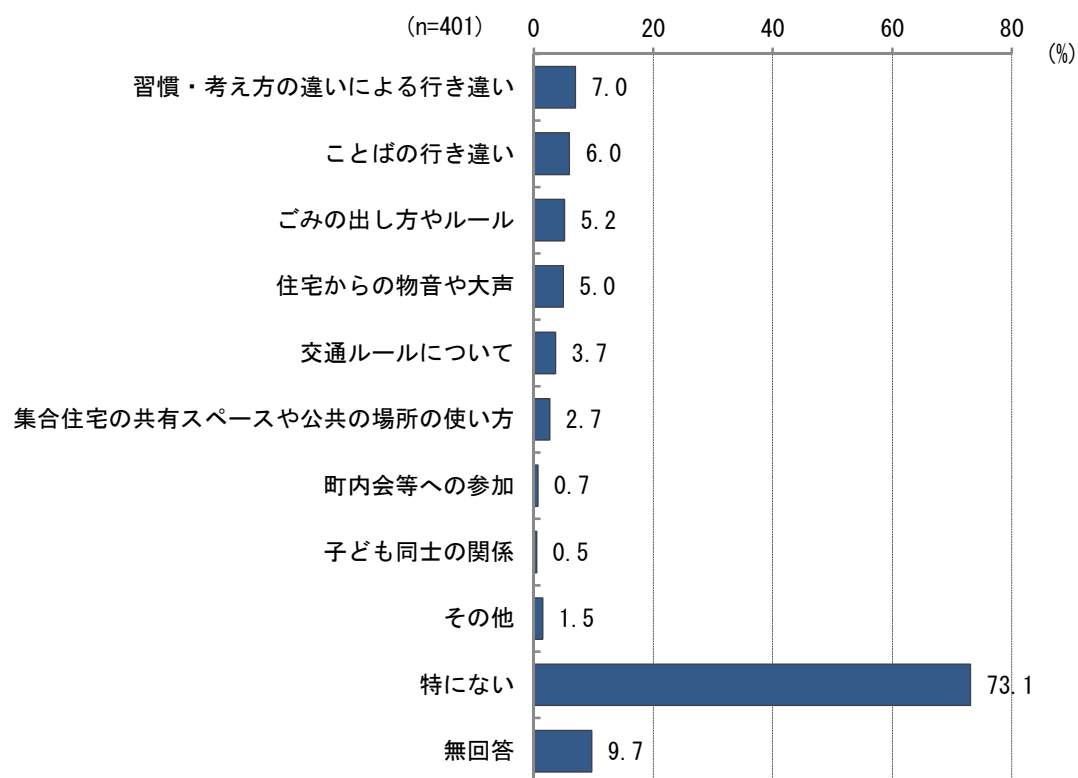
【全体】



外国籍住民とつきあいがいい理由について、「近所や職場に外国籍住民がいない」との回答が 67.1%と最も高く、次いで、「近所や職場に外国籍住民がいるかどうか分からない」(24.3%)、「どのように接すればよいか分からない」(18.3%)などの順となっている。

問13 外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験がありますか。(〇はいくつでも)

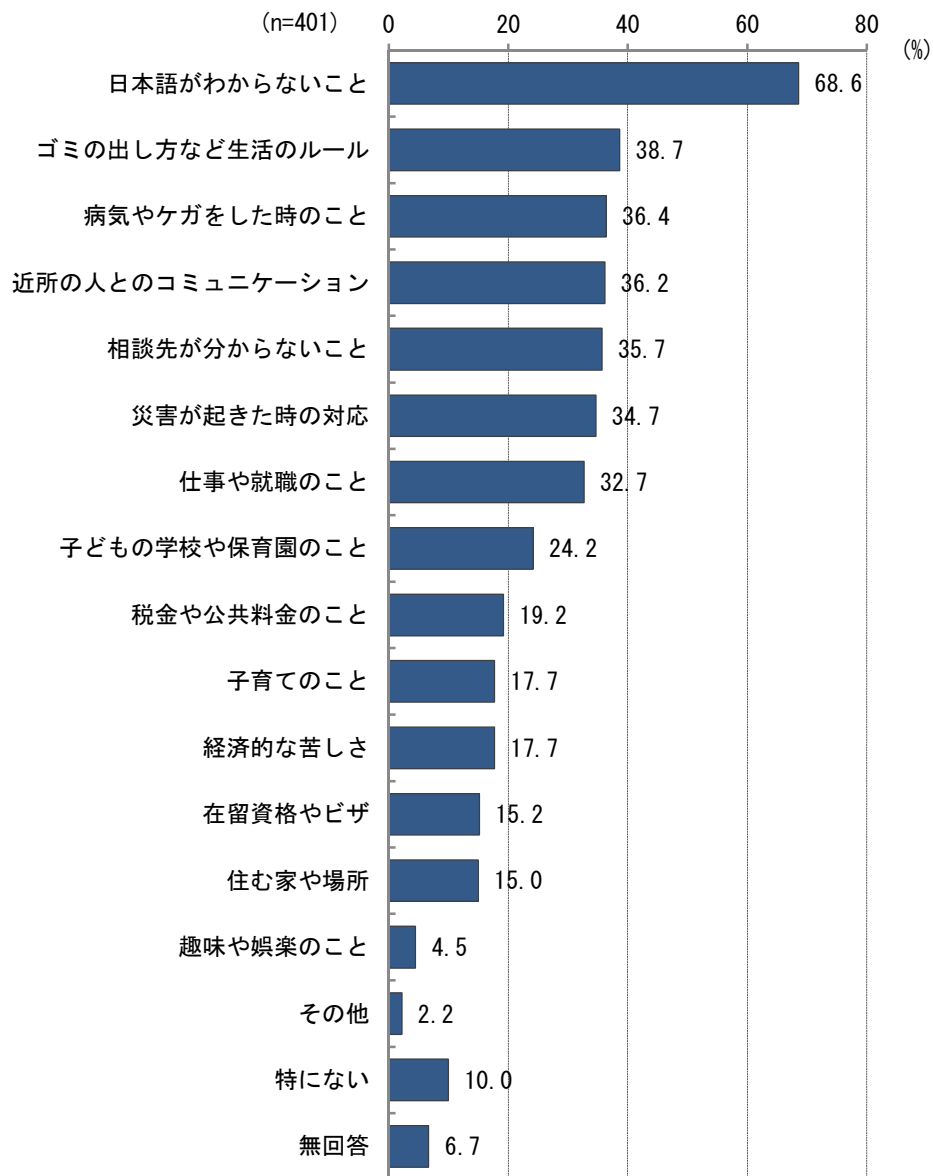
【全体】



外国籍住民とトラブルの経験について、「習慣・考え方の違いによる行き違い」との回答が7.0%と高く、次いで、「ことばの行き違い」(6.0%)、「ごみの出し方やルール」(5.2%)などの順となっている。また、「特にない」との回答も73.1%と高くなっている。

問 14 外国籍住民にとって、生活の困りごとや不安は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

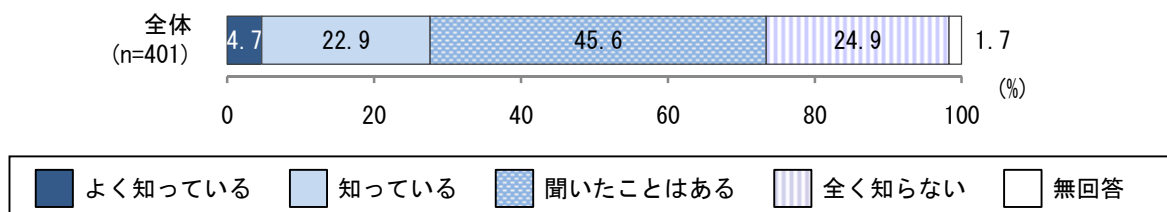


外国籍住民にとっての生活の困りごとや不安について、「日本語がわからないこと」との回答が68.6%と最も高く、次いで、「ゴミの出し方など生活のルール」(38.7%)、「病気やケガをした時のこと」(36.4%)などの順となっている。

4 外国籍住民との共生について

問 15 多文化共生という言葉を知っていますか。(○は1つ)

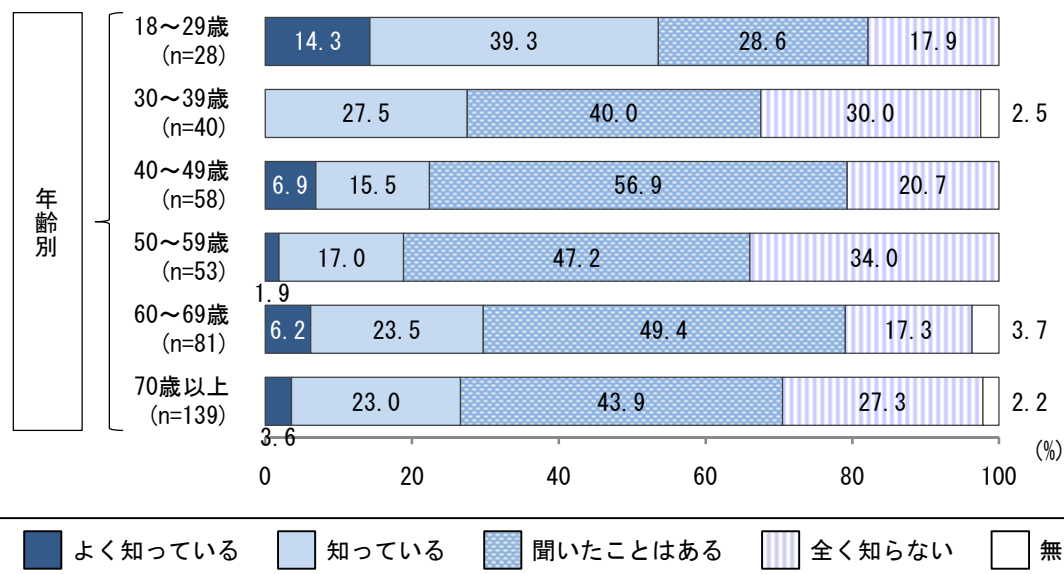
【全体】



多文化共生という言葉の認知度について、「聞いたことはある」との回答が 45.6%と最も高く、次いで、「全く知らない」(24.9%)、「知っている」(22.9%)などの順となっている。

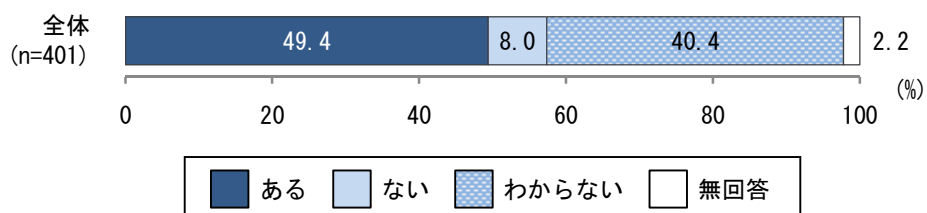
【年齢別】

年齢別にみると、「知っている」との回答は 18～29 歳で約 4 割と高くなっている。また、「全く知らない」との回答は 30～39 歳、50～59 歳で 3 割超と高くなっている。



問 16 外国籍住民と共生する必要があると思いますか。(○は1つ)

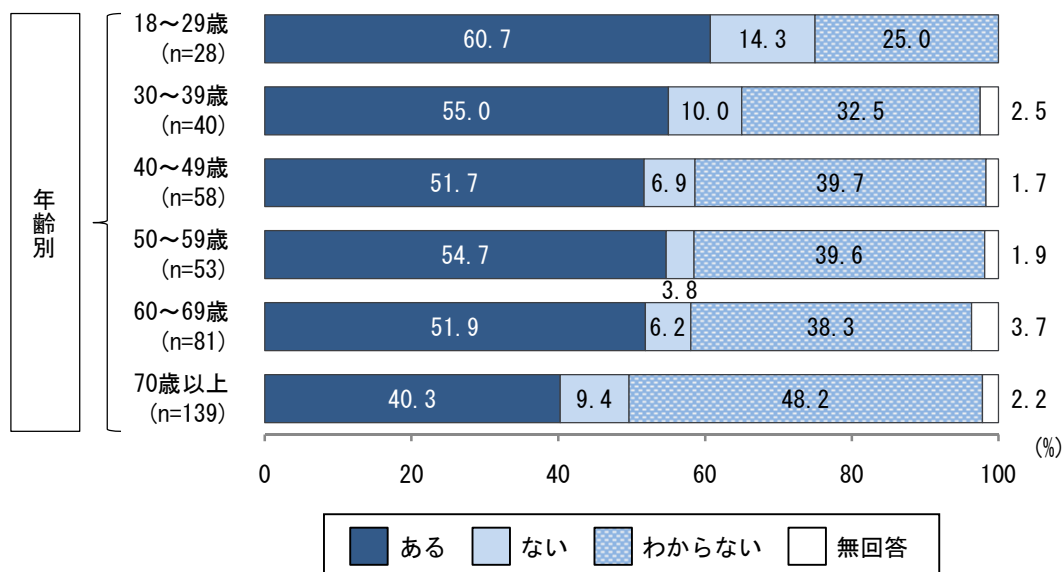
【全体】



外国籍住民と共生する必要の有無について、「ある」との回答が 49.4%と最も高く、次いで、「わからない」(40.4%)、「ない」(8.0%) などの順となっている。

【年齢別】

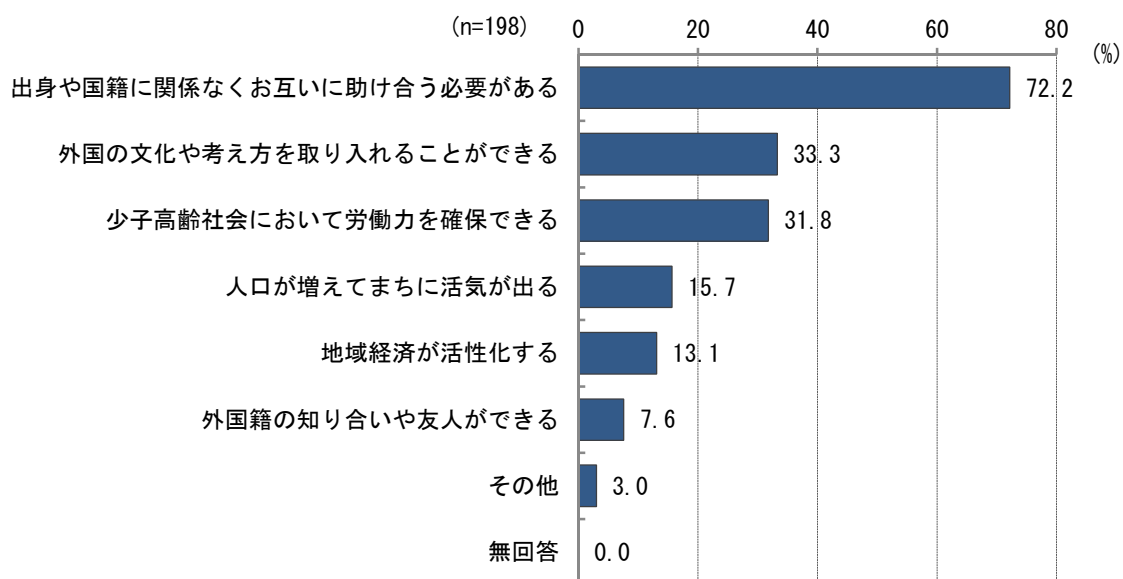
年齢別にみると、「ある」との回答は 18～29 歳で 6 割超と高くなっており、年齢が上がるにつれて、低くなる傾向がみられる。



問 16 で「1 ある」と答えた方に聞きます。

問 17 なぜ、外国籍住民と共生する必要があると思いますか。(〇は2つまで)

【全体】



外国籍住民と共生する必要がある理由について、「出身や国籍に関係なくお互いに助け合う必要がある」との回答が 72.2%と最も高く、次いで、「外国の文化や考え方を取り入れることができる」(33.3%)、「少子高齢社会において労働力を確保できる」(31.8%)などの順となっている。

問 16 で「2 ない」と答えた方に聞きます。

問 18 なぜ、外国籍住民と共生する必要がないと思いますか。理由をお書きください。

【全体】

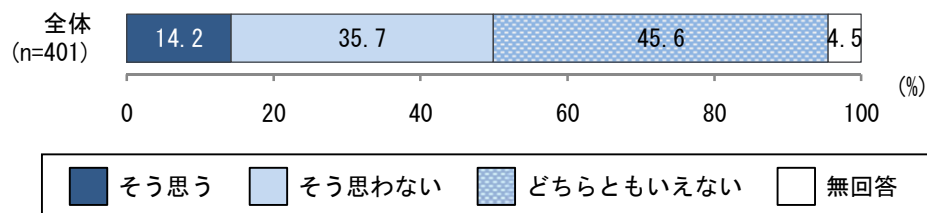
(件)

	分類	件数
(1)	トラブルを起こすかもしれないため	3
(2)	治安悪化の不安	2
(3)	信用がない	3
(4)	良く思わないから	1
(5)	言葉や文化などの違い	4
(6)	外国籍住民と関わる環境にない	2
(7)	必要性がないため	3
(8)	その他	7

外国籍住民と共生する必要がない理由について、「言葉や文化の違い」との回答が 4 件と最も高く、次いで、「トラブルをおこすかもしれない」「信用がない」「必要性がない」(3 件)、「治安悪化の不安」「外国籍住民と関わる環境にない」(2 件)などの順となっている。

問 19 外国籍住民との共生は、あなたご自身とのかかわりが深いことだと思いますか。(○は1つ)

【全体】

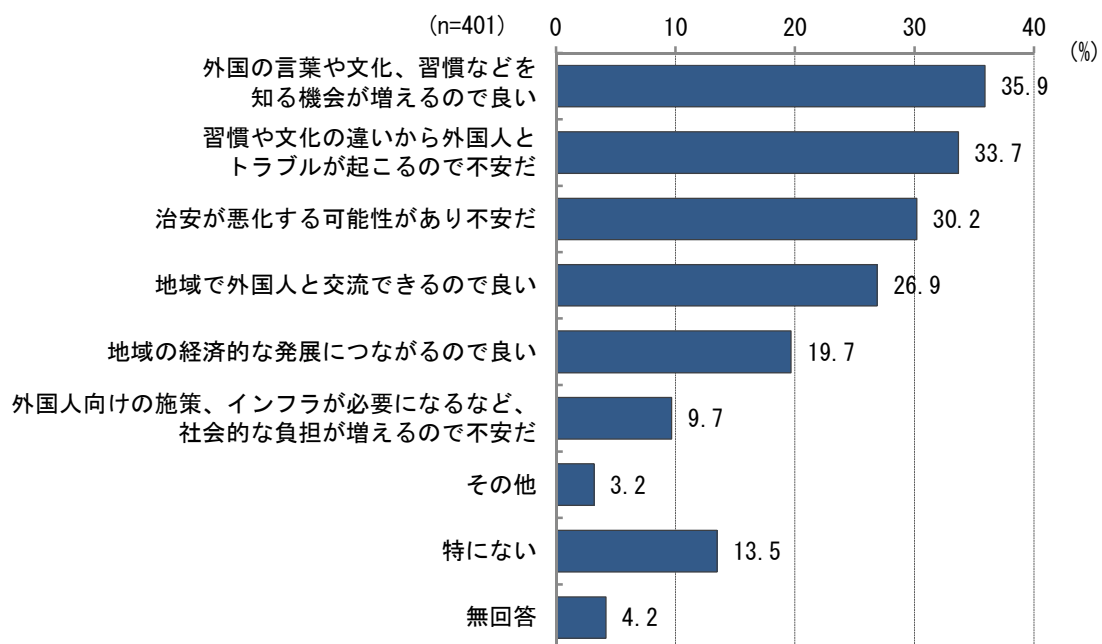


外国籍住民との共生は自身と関わり深いことだと思うかについて、「どちらともいえない」との回答が 45.6%と最も高く、次いで、「そう思わない」(35.7%)、「そう思う」(14.2%)などの順となっている。

問 20 あなたは、地域に外国籍住民が増えていくことについてどのように思いますか。

(○はいくつでも)

【全体】



地域に外国籍住民が増えていくことについて、「外国の言葉や文化、習慣などを知る機会が増えるので良い」との回答が 35.9%と最も高く、次いで、「習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので不安だ」(33.7%)、「治安が悪化する可能性があり不安だ」(30.2%)などの順となっている。

【外国人とのつきあい状況別】

外国人とのつきあい状況別にみると、「治安が悪化する可能性があり不安だ」との回答は外国人とつきあいはない（31.9%）が外国人とつきあいがある（24.1%）を7.8ポイント、「習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので不安だ」との回答は外国人とつきあいはない（34.9%）が外国人とつきあいがある（27.6%）を7.3ポイント上回っている。

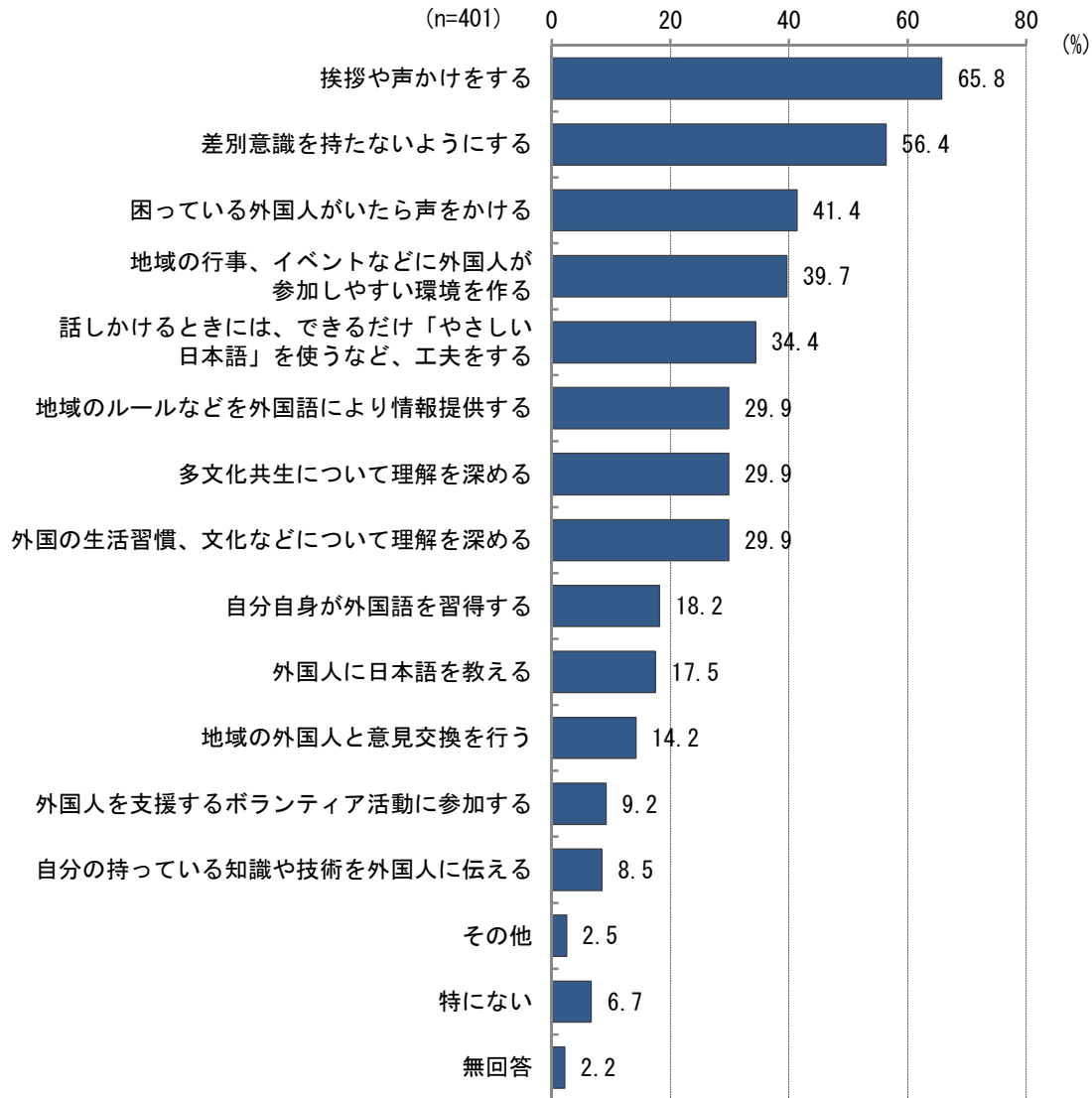
外国人とつきあいはない人は外国人に対してネガティブなイメージを持っている割合が高くなっている。

		外国の言葉や文化、習慣などを知る機会が増えるので良い	地域で外国人と交流できるので良い	良好な経済的な発展につながる	習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので不安だ	治安が悪化する可能性があり不安だ	外国人向けの施策、社会的な負担が増えるなど、不安だ	その他	特になし	無回答
全 体（n=401）		35.9	26.9	19.7	33.7	30.2	9.7	3.2	13.5	4.2
つきあ外国人状況別	外国人とつきあいがある（n=87）	46.0	34.5	29.9	27.6	24.1	8.0	4.6	8.0	2.3
	外国人とつきあいはない（n=301）	33.6	25.2	17.6	34.9	31.9	10.3	3.0	14.3	4.7

1位 2位 3位

問 21 あなたは、外国籍住民と互いに理解しあって生活するために、日本人にはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

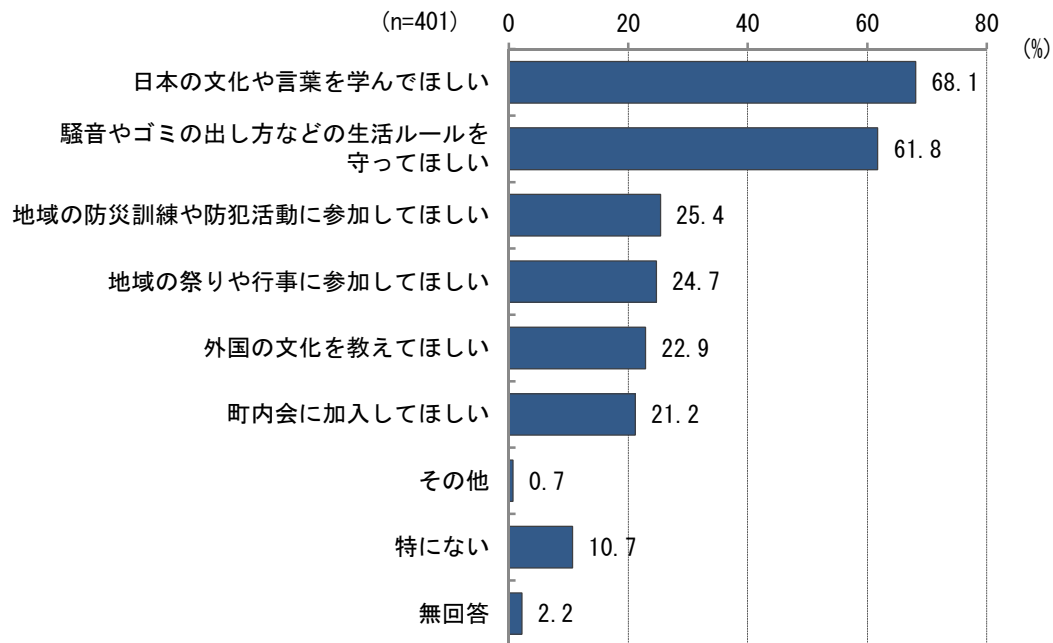


外国籍住民と理解し合って生活するために日本人に必要なことについて、「挨拶や声かけをする」との回答が 65.8%と最も高く、次いで、「差別意識を持たないようにする」(56.4%)、「困っている外国人がいたら声をかける」(41.4%) などの順となっている。

問 22 外国籍住民と共生するために、外国籍住民にどのようなことが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

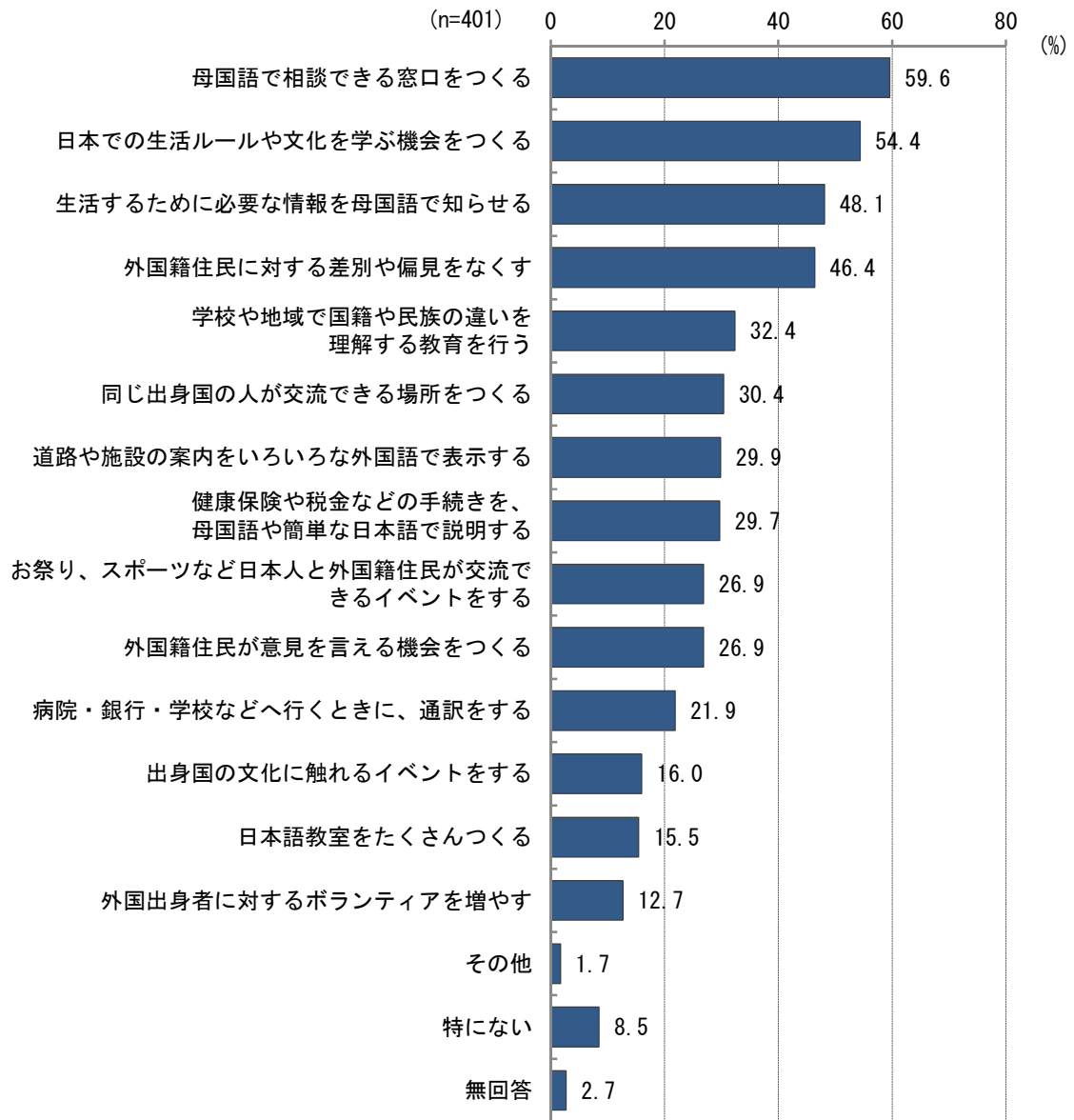
【全体】



外国籍住民と共生するために外国籍住民に必要なことについて、「日本の文化や言葉を学んでほしい」との回答が68.1%と最も高く、次いで、「騒音やゴミの出し方などの生活ルールを守ってほしい」(61.8%)、「地域の防災訓練や防犯活動に参加してほしい」(25.4%)などの順となっている。

問 23 外国籍住民がより暮らしやすくなるには、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

【全体】

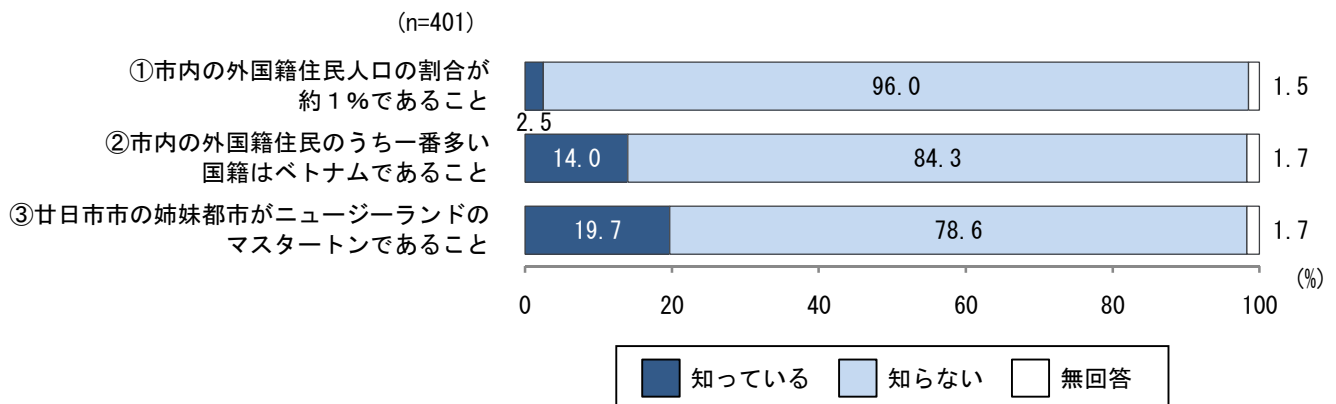


外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な取り組みについて、「母国語で相談できる窓口をつくる」との回答が 59.6%と最も高く、次いで、「日本での生活ルールや文化を学ぶ機会をつくる」(54.4%)、「生活するために必要な情報を母国語で知らせる」(48.1%)などの順となっている。

5 市の施設や事業について

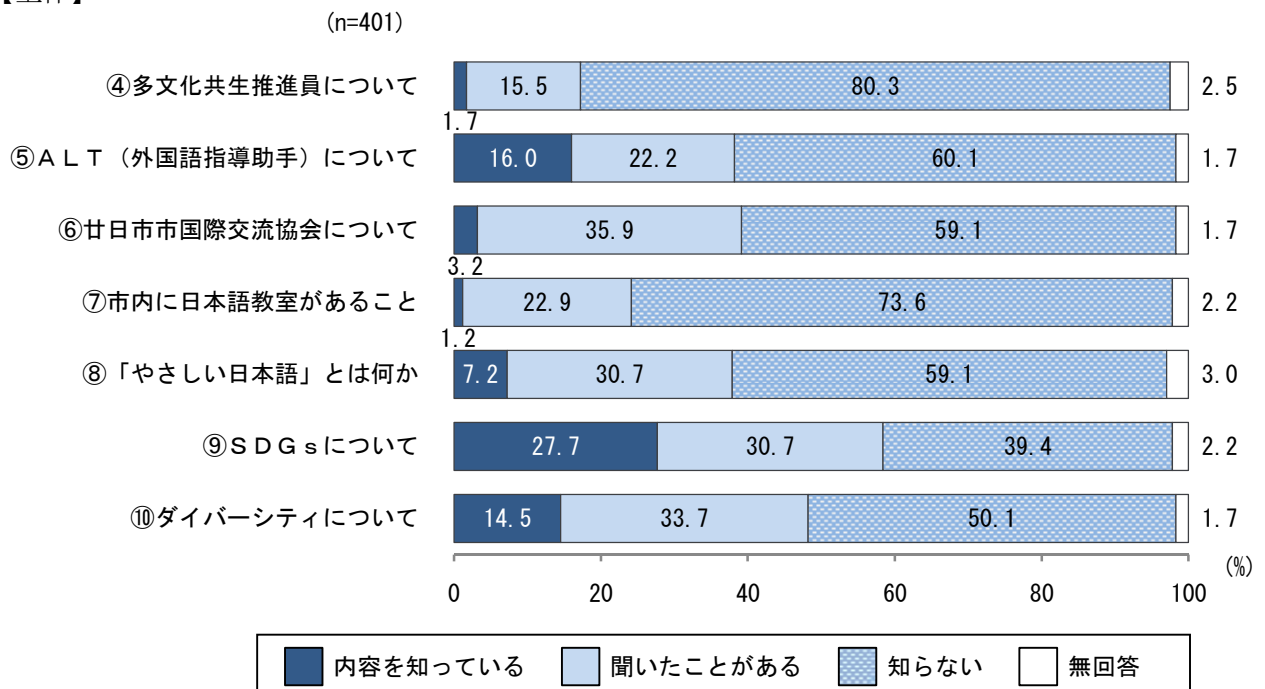
問 24 次のことについて聞いたことがありますか。(それぞれ1つに○)

【全体】



多文化共生関連の物事について、「知っている」との回答は「廿日市市の姉妹都市がニュージーランドのマスタートンであること」(19.7%)となっている。一方、「知らない」との回答はほとんどの項目で高くなっており、「市内の外国籍住民人口の割合が約1%であること」との回答が96.0%となっている。

【全体】

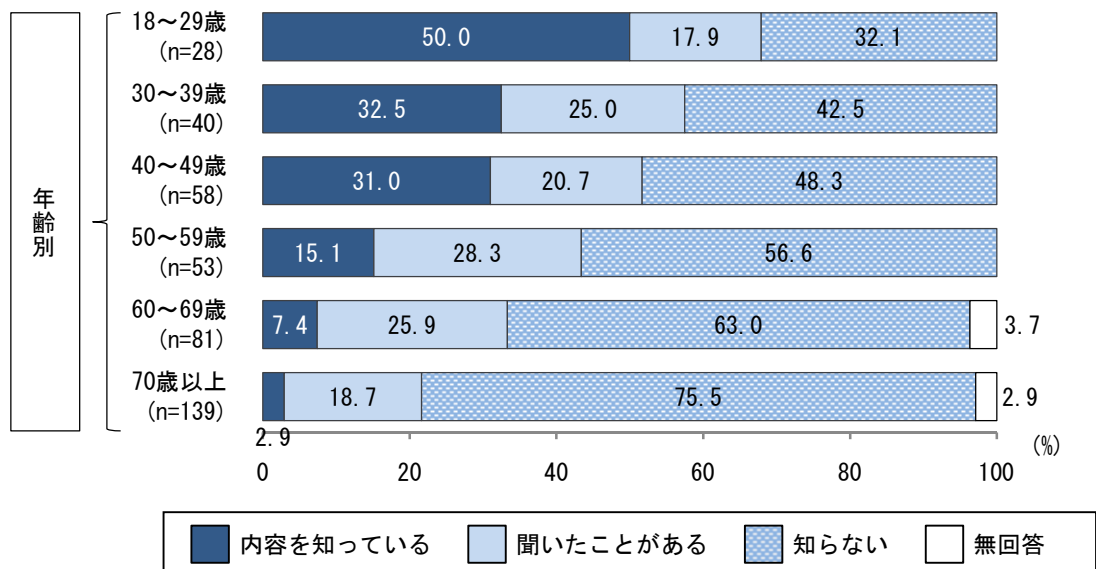


多文化共生関連の物事について、「内容を知っている」との回答は「S D G s について」(27.7%)、「A L T (外国語指導助手) について」(16.0%)、「ダイバーシティについて」(14.5%)となっている。一方、『知らない』との回答は「多文化共生推進員について」との回答が80.3%となっている。

⑤ALT（外国語指導助手）について

【年齢別】

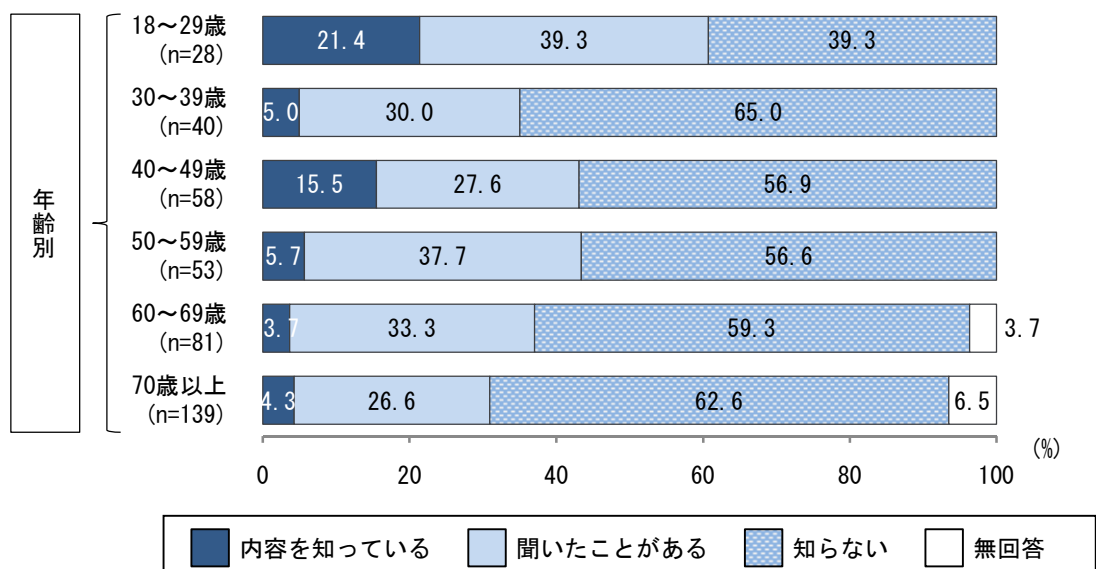
年齢別にみると、「内容を知っている」との回答は18～29歳で5割と高くなっており、年齢が上がるにつれて、低くなる傾向がみられる。



⑧「やさしい日本語」とは何か

【年齢別】

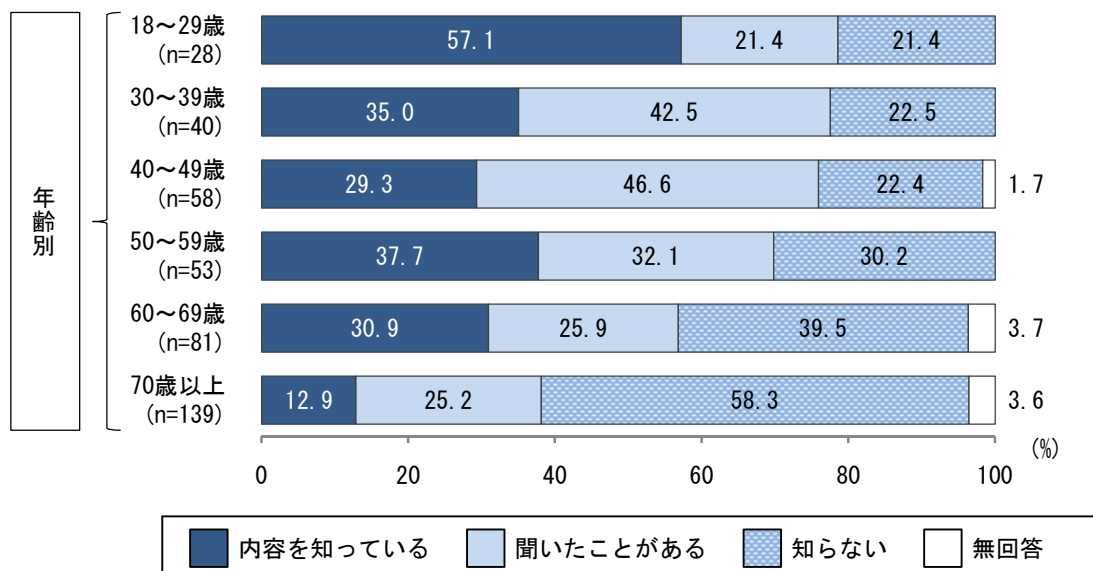
年齢別にみると、「内容を知っている」との回答は18～29歳で2割超と高くなっている。



⑨SDGsについて

【年齢別】

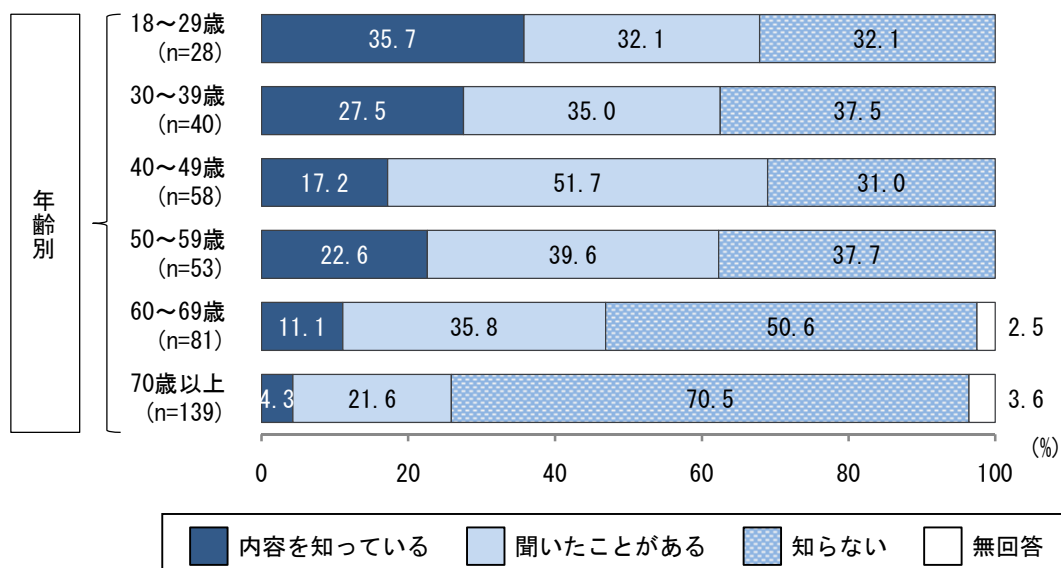
年齢別にみると、「内容を知っている」との回答は18～29歳で約6割と高くなっている。また、「知らない」との回答は70歳以上で約6割と高くなっている。



⑩ダイバーシティについて

【年齢別】

年齢別にみると、「内容を知っている」との回答は18～29歳で3割台半ばと高くなっており、年齢が上がるにつれて、低くなる傾向がみられる。



問 25 市の国際化・多文化共生に関することについて、ご意見、ご提案などがありましたら自由にお書きください。

【全体】

(件)

	分類	件数
(1)	コミュニケーション（異文化理解、交流等）について	21
(2)	教育・言語学習について	8
(3)	日常生活のマナー・ルールについて	3
(4)	情報発信について	4
(5)	国際化・多文化共生の問題点、課題について	6
(6)	行政・市に対する要望について	14
(7)	アンケートについて	7
(8)	その他の意見	21

自由記述について、「コミュニケーション（異文化理解、交流等）について」との回答が 21 件と最も高く、次いで、「行政・市に対する要望について」（14 件）、「教育・言語学習について」（8 件）などの順となっている。

（１）コミュニケーション（異文化理解、交流等）について（21 件）

1	これから益々国際化は進んでいくと思います。他国に出て生活している方も多いですから、多文化共生は進むと思います。皆で少しずつ慣れて輪を広げていければと思います。 (宮島地域、70 歳以上)
2	きっかけさえあれば、外国籍の方たちも地域住民の方たちもコミュニケーションをとることが容易だと思います。そのきっかけとして、外国籍の方たちが参加しやすい行事などがあればいいと思います。 (廿日市地域、40～49 歳)
3	違いを受け入れ、共に生きていく社会になればうれしいです。多文化共生そして障害者の皆さんとも関わる機会が増えれば子供たちにとって特に、違うということ、ともに助け合って生きていくということにそれがあたりまえの社会になっていけることを願います。もっとお互いが交流できる場や機会がたくさんできるといいですね。 (宮島地域、40～49 歳)
4	どちらか一方が歩み寄るのではなく、お互いが尊重し合って理解を深めていくことが大切だと思います。 (廿日市地域、30～39 歳)
5	近所にベトナムの方が住んでいます。あいさつはしますが、日本語が難しいからか普通の会話は出来ていません。こちらから一回声をかけることが出来た時は笑顔で答えてくれました。やはり言葉の壁をこえることの出来る活動が出来ると良いですね！！ (大野地域、30～39 歳)

(2) 教育・言語学習について (8件)

1	小中高で外国の先生を取り入れ、もっと子どものときに触れあう機会を増やせば、将来、外国人に抵抗をもつ人が少なくなると思われるので、小中高での教育機関での国際的な体験をもっと増やすことが大事だと思う。 (廿日市地域、20～29 歳)
2	言語の壁をどうにかしたい。無料や仕事終わりに行ける教室などあれば参加したい。外国籍住民がどこに住んでいるのか知っていたら気にかけると思う。 (廿日市地域、40～49 歳)
3	全く知らずに悪気なく差別的な言葉を使った人が、後で知ってショックを受け猛反省しているところを見たことがあります。無知や不注意からおたがいが不愉快な思いをすることのないよう、歴史的、文化的な背景や、身近な国際儀礼についての教育はとても大切だと思います。 (宮島地域、50～59 歳)

(3) 日常生活のマナー・ルールについて (3件)

1	もっと支援者の人達 (ボランティアなど) 外国の人に、日本のルール特に廿日市市などは田舎なので、出会った時のあいさつはもちろん、地域の中にとけ込んでいける様教えてあげた方がいいと思う。自転車による危険な行為なども目立ちます。恐いので注意も出来ません。 (廿日市地域、70 歳以上)
2	ベトナム人等、ラーメンを食べながら歩いているのを見かけるが文化が違うから仕方がないのかと思う。出来たら止めてほしい。 (佐伯地域、70 歳以上)

(4) 情報発信について (4件)

1	人口の1%のもの外国籍の方々がおられるとは全く知らなかった。もしこのアンケート内に設問があったコミュニティがあるのであれば、広報などで情報発信してほしい。すぐに参加はできなくても、目にすることでハードルが下がるし、次回は参加してみようと思えることができるようになるかもしれない。 (廿日市地域、50～59 歳)
2	情報発信を多く行い、利用しやすい場所をつくることができればいいと思う。 (廿日市地域、40～49 歳)

(5) 国際化・多文化共生の問題点、課題について (6件)

1	個人の外国人が住まう分には大きな問題は無いと思われるが、集団で居を構えると、独自のコミュニティを形成し、その中の常識を持ち出されトラブルに発展する可能性が高いと思われる。国際化自体は良い事と思うが、そこに人の意志が介入する以上、慎重に物事を運ぶべきであると考えている。 (廿日市地域、40～49 歳)
2	市の国際化、多文化共生を目指すにはまず外国の方に意見を聞き、その結果を検討し、支えていくべきだと思う⇒ (窓口等で)。日本人が身構えると、相手は感じとり意識し、共生は難しいのではないかと考える。多くの人が、普通に接し、外国の方と普通に共生すべきだと考える。今の若者は、そのあたりの垣根は無いのではなかろうか。 (廿日市地域、40～49 歳)

(6) 行政・市に対する要望について (14 件)

1	自分たちが他国に移り住んだときにその他の人たちや行政や支援団体にどんなことをやってほしいか、自分たちはどんなことに困りそうかを色々想定した上でその逆のことを廿日市市や市民が行うように努めることができればよいと思う。宮島も広島市も国内の中では外国からの訪問者が非常に多い土地柄である（今はコロナ禍で停滞しているが）事とアドバンテージと考えてそれを生かした活動と皆ができるようになるとよい。日本人自身が日本や地元の文化、歴史、風土、自然や地理などもっと広く知るよう勉強しないといけない。何事につけ地域エゴはなくすこと。 (宮島地域、60～69 歳)
2	外国籍の方が、町中を自主的に行動できる手段を 1 つでも 2 つでも用意すること。例えば、タイ国で就業していた時、休日、自主的にリゾート地へ旅した時、警察を含めて地図が読めない文化のため、行動の妨げとなり困った。唯一不動産屋にかけ込んで、道を教えて頂き、次の行動へつながった。積極的な支援の反面、この様なちょっとした対策が必要。 (廿日市地域、60～69 歳)
3	英語が話せたら多文化共生に対応できるわけではない。母国語しか話せない人たちもたくさん日本にきていると思う。多様な人たちの言葉を理解してあげる事も必要。そのための機械などの設備管理は必要だと思います。 (吉和地域、40～49 歳)

(7) アンケートについて (7 件)

1	多文化共生、見聞きした事はありませんが 11 ページに記入されている言葉は知らない事ばかりでした。 (大野地域、70 歳以上)
2	もっと DX を活用したアンケートにするべき。予算の使い方やデータ集計においてももっとレベルアップすべき。しかし、こうした取り組みにより、住みやすい町づくりがなされている点に感謝します。 (大野地域、30～39 歳)

(8) その他の意見 (21 件)

1	宮島に住んでいるため海外からの観光客については考えたことがあったが、地域に居住して、共生することは考えたことがなかった。これから知りたいです。 (宮島地域、50～59 歳)
2	市の国際化は大事で多文化共生はお互いに学び合うことができ、交流になるので大切です。只年寄りになりますと行動範囲がせまくなり近所のみになりますがい物に行くと他国語が飛び交っていて多文化共生は大切だと思っています。 (佐伯地域、70 歳以上)